千里
モニュメント
〈記念彫刻〉
作品目録

MONUMENT
IN SENRI N.T.
1970

大阪府・千里開発センター



あいさつ

削りとられた山肌にコンクリートの建物とアスファルトの道路だけといった数年前の索漠さから、ようやく樹々の緑に薫風が吹きわたり、高層ビルディング等の近代的な建物が姿を現わし、千里ニュータウンも10万人をこえる町に発展いたしました。

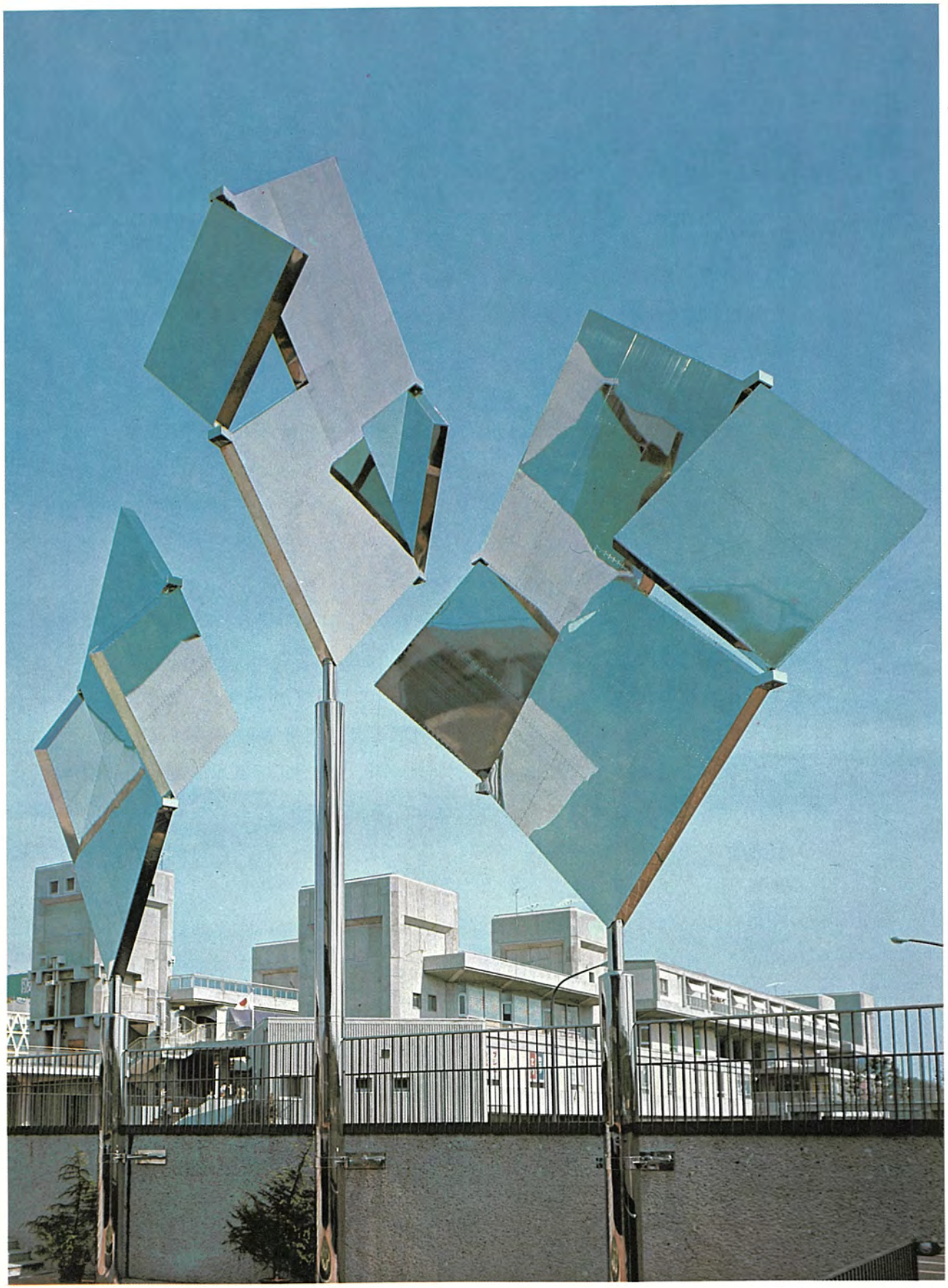
新らしい町づくりに懸命の努力を続けてきましたその成果を、内外の方々にお見せできる喜びを感じながらも、一方では何かもの足りなさが感じられてなりませんでした。人々にはそれぞれ生れ育った故郷で、丘の上の大樹や海辺の岩組などいつまでも愛着を感じ、記憶にとどめられている象徴的なものがありますが、千里ニュータウンにはそれが欠けているような気がして、是非ここにもとかねてから強く念願いたしておりました。

このような念願と、本年は千里ニュータウンの開発事業も一応完成することになり、また隣接地に世紀の祭典日本万国博覧会を迎えることができ、これを記念する意味をも含めまして、大阪府と財団法人千里開発センターでは、要所に野外彫刻５点を配置し、１ヵ所を造園で修景することを企画いたしました。

幸いわが国で最も優れた制作者６氏が選ばれ、特に彫刻４点は趣旨をご理解いただいた企業から寄贈されることになり、新鮮な感覚をもちながらも親しみやすい造形をめざして制作に傾注され、ここにご紹介の作品の完成をみましたことを衷心より感謝申し上げます。

これらの作品は、必ず私どもの意図しましたように町にうるおいをもたらし、人々から愛され、深く心の中に刻みこまれて生きつづけることと信ずる次第であります。

大阪府知事　左藤義詮





ステンレスの林

飯田　善国
Yoshikuni Iida

寄　　贈　大阪瓦斯　株式会社
設置場所　中央地区センター

作者略歴　1923年栃木県に生まれる。49年慶応大学文学部卒。
53年東京芸術大学油絵科卒。1956年ローマに渡り、ペリチレー・ファシーニに師事し塑造を学ぶ。1960年ミュンヘンで初の個展、鋼鉄及び石彫シンポジウムに参加。ウィーン市より青年美術家賞を受ける。
各国で彫刻個展開催。DAAD（ドイツ・アカデミー交換機関）のアーチスト・フエローを受ける。1967年ベルリン市主催指名彫刻コンペー等賞を受ける。1968年第８回現代日本美術展「神奈川県立近代美術館賞」受賞。第１回現代日本野外彫刻展（須磨）にて「大賞」受賞。1969年国際鉄鋼彫刻シンポジウムに参加。1970年万国博美術館「現代の躍動」に招待出品。

制作のことば

「千里ニュータウン」の中央センタービル広場に縁あってモニュメントを制作することになって、最初に私が感じた喜びは、自分が年来抱き夢みてきた「日本の都市の広場」が、日本にも生れつゝあるのではないかという期待と、そのような新しく誕生しつゝある現代日本の新しい町づくりの中心核としての広場に、自分も参加できるのだと云う実感から私のモニュメント制作の意図について若干の説明をこゝろみてみたい。

○　　○　　○

鏡面みがきのステンレス板は、つまり金属の鏡面 — たとえ完全な鏡面ではないとしても、それが静止している時には、静止した対象を映し出し、それが廻転する時には、その廻転速度にしたがって、対面する風景を映し出す。

廻転する鏡面自体の運動を眺めることによって、眺める者の内部に、

(1)　運動の感覚に伴う時間の意識が生ずる。

(2)　光を反映する鏡面は、光のびまんする世界の中で、光によって選びとられた印象をおこす。

(3)　視る者の内部を流れる時間、鏡面の運動自体が示す時間、鏡面に映る風景が示す時間、鏡面に映らない風景が所有している時間、それらを包んでいる世界自身の時間、これら「時間の多元性重層性」の意識を喚びおこす。つまり、一切のものが物質の運動すなわち時間に深く浸されていると云う意識 —— これこそが生の根源の意識なのであって、運動する鏡面というものの呈示する哲学的意味は大体このようなものである。

(4)　われわれは亦、われわれを含めた物全て、つまり世界全体が物質の運動に深く浸され、そこから脱出することが不可能である事実をかい間見させること、これがキネティック・アートの合理性と非合理性である。

(5)　完全鏡面でない鏡面に映る風景は歪んでおり、この事実は、人間の認識の主観性についてのユーモラスな批評である。

以上の列挙は、不完全ながら私の「動く鏡面」による作品の内的動機（モチーフ）を分析したものである。このような心的傾向は、都市的空間に住む人間の心理の深層につながっており、都市的空間の内部の公共的プラザのモニュメントの性格として適合するのではないかと考えた。

作品概要　鋼鉄のフレームに鏡面みがきステンレス板２ミリ厚、高さ約15メートル、巾約12メートル。

寄贈のことば

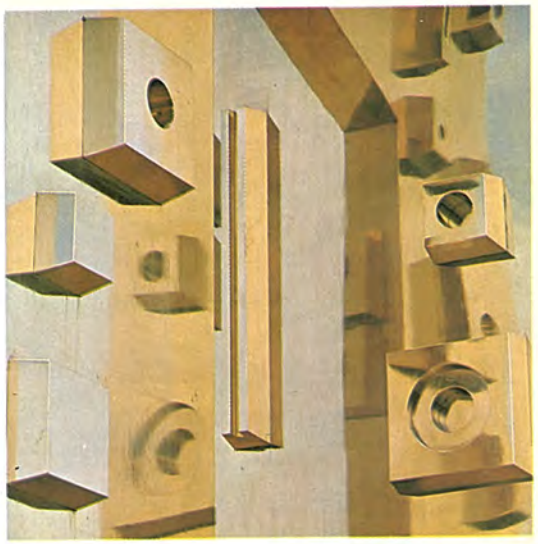
大阪府が10年に近い歳月をかけて、開発を進めてこられた東洋一を誇る千里ニュータウンも、いよいよ全体の修景整備計画の段階に入っています。その一環として、住民の方々はもとより、ここを訪れる多くの人々の心に、潤いとやすらぎを与えようとする、大阪府のモニュメント設置計画に、弊社も参加し、緑と光に包まれたニュータウンの街並に、さらに新鮮な花をそえることができましたことは、公益事業の使命達成と地域社会への奉仕を念願とする弊社にとりまして、まことに喜びにたえません。

弊社は、すでに中央地区センターに、ガスによるわが国最初の地域冷暖房を実現し、新しい街づくりに積極的な役割を果していますが、このたび、著名な飯田先生の手になる、弊社寄贈のモニュメントが、この北大阪の副都心ともいうべき、同じ中央地区センターに設置されることは、まことに光栄なことであります。このモニュメントが末永く、住民の方々の心のふるさととして、また躍進する千里ニュータウンの象徴として、みなさまから愛されることを、心から祈らずにはいられません。

昭和45年６月

大阪瓦斯株式会社
取締役社長　西　山　磐





日と風と雨に

辻　晋堂
Shindou Thuji

寄　贈　関西電力　株式会社
設置場所　千里南公園

作者略歴　1910年鳥取県に生まれる。33年から57年まで院展に出品。42年日本美術同人、58年二紀会、65年無所属。サンパウロ・ビエンナーレ展。ヴェニスビエンナーレ展。グッゲンハイム美術館「七人の彫刻家」展（ニューヨーク）ほか各国美術展出品。個展開催。1966年ジャパンアートフェスティバル及びニューヨーク近代美術館「日本絵画と彫刻」展（ニューヨーク）ロダン美術館第3回国際彫刻展（パリ）アメリカ・ヨーロッパを旅行す。

制作のことば

木食上人（1718－1810）は56歳で日本廻国の大願を発起し、83歳で満願成就したが、更にその後も廻国巡礼の生活を93歳示寂に至るまで続けた。上人はその廻国巡礼の途上、因縁ある地に於いて極めて多くの彫刻を作った。これは誰から頼まれたのでもなく全く自らの心願によるもので、その仏像神像等の数は一千体を超えると云う。しかもこれは60才以後の30年ばかり間の行跡である。上人の後半生は自らたてた十大願成就のため昼夜間断ない厳しい精進の連続であった。とりわけて千体仏造立は十大願の中の本願であった。上人は遂にこれを成就して更に願を二千体に改めたと云はれる。それは恐らく示寂の年にも近い91歳以後のことではなかろうかと思われる。木食上人は文化３年、90歳の秋から翌４年、91歳の春にかけて、丹波国船井郡諸畑村に滞留し、その後摂津の池田の奥、猪名川上流のあたりにその年の秋の頃までいて多くの仏像神像等を造ったようである。

私は曽って諸畑村清源寺と蔭涼庵にのこる27体の像を拝見した。像はすべて「日本千体ノ内作」と記されていたので、この頃は未だ一千体成就に至っていないことがわかる。

蔭涼庵所蔵の上人自身像の背面には次のように墨書の造像銘が記されている。

天下和順日月清明。明満仙人自身像。父母菩提ノタメ。神通光明
明満仙人90歳。日本千体ノ内作。文化４年正月８日。

他の26体の像の背面もこのように「天下和順日月清明」「日本千体ノ内作」の句が書かれ、像名、年月日、自号、年令等が書かれている。日本各地にのこる木食彫刻の造像銘はこのように天下和順日月清明の句が書きつけてあるのではなかろうか。この簡単な銘の意味は「天下和順にして日月清明ならんことを、一切衆生のために祈念して何々の像を刻む。此の造像の功徳は誰某の菩提のために捧げる」というような心持ちのものであろう。

千里ニュータウンの記念碑の製作について私は木食上人の真似をして天下和順日月清明を祈って此の仕事に当ることを心にきめた。日と風と雨に　という題はそのためである。

世界が平和であるように、また人間が文明の害毒におかされることなく、健康で明るい生活を維持できるように　という願いである。千里の居住者の人々のために、そして日本中、世界中の人々のために、いまこの願いを起さねばならない。このことを祈らねばならない。ここに私の作ろうとするものは神仏の姿ではないがそのような祈りの心をこめて作り、この心を千里の人々に捧げたいと思った。

作品概要　高さ約５メートル、巾約２メートル、真鍮５ミリ板製。

寄贈のことば

千里地区開発事業は、1960年代の大阪府政を象徴する偉業として、今ここに1970年日本万国博開催の年に完成のときを迎えようとしております。この開発事業は、まさにわが国大規模団地開発の先駆として永久にその栄誉を担うものと考えられます。かっては広莫竹林の広がるのみであった千里丘陵を、かくもみごとな近代都市に転換された関係者御一同のなみなみならぬ御努力は永く讃えられるべきであります。

私どもはこの記念すべき開発事業の成功を心からお慶び申しあげますとともに、「この地区に生活される住民の方々にいささかでも憩いと潤いを」という左藤知事からのお呼びかけにおこたえして、ささやかながらモニュメント壱基をお贈りすることにした次第でございます。

願わくば、このモニュメントが永く地区住民の皆様に愛され親しまれ、あわせてこの偉大な開発事業を讃える象徴となりますならば、寄贈者として欣快これに過ぎるものはございません。

昭和45年６月　関西電力株式会社
社　長　芦原　義重





あほんだら獅子

流　政之
Masayuki Nagare

寄　贈　株式会社　大和銀行
設置場所　千里中央公園

作者略歴　1923年長崎に生まれる。戦後約７年間、北陸・山陰と放浪生活を続け、1958年アメリカの建築家イーロ・サーリネンらによって作品が注目され、アメリカにブームを巻きおこす。作品「受」がニューヨーク近代美術館買上、ニューヨーク世界博覧会での日本館の石壁「石狂い」。リンカンセンター　ジュリアードのための彫刻　セントルイス美術館のための彫刻　サンフランシスコ、アメリカ銀行本部の前庭の石彫がこの程完成。

制作のことば

喰いだおれながら商売繁昌の町人天国の大阪の地。

そのなかに育ったあつかましくとも人情豊かな上方の伝統を、大阪の鬼門の千里にたてる厄除け鬼門払いの獅子頭、それは二つにずれ、見方によっては夫婦、見方によってはひとり者にうつるしくみ、大阪城の石垣の古事にならい。

瀬戸内海の大きい石を千里丘陵中央公園の小山に運び込み組上げる。すべてが難かしくなり殺気に血迷う当世の人々に笑いと明るさを与える　彫刻「あほんだら獅子」。

作品概要　大きさ約4.75×3.4×3.25メートルの石彫、重量約130トン。材料北木石・庵治石・徳山石。

構造設計　富沢研究室

寄贈のことば

大阪府において進めておられました千里丘陵住宅地区開発事業が、大成功のうちに完成いたしましたことはまことに喜ばしく、関係者の皆様方の御努力に深く敬意を表します。当行は大阪に本店をおき、大阪府の指定金融機関として永年にわたって御愛顧を受けていますが、本開発計画の実施過程におきましても何かと御用命賜り、些か貢献する機会を与えられましたことは此上ない喜びであります。お陰様で創立以来50余年を経過し、銀行信託兼営の唯一の都市銀行として巾広いサービスを皆様に提供しつゝ今後も一層躍進する積りであります。この機会に日頃のお引立てに対する感謝の意を表するため、世界的に高名な流先生の手になるこのモニュメントを設置、寄贈することに致しました。

昭和45年６月

株式会社　大和銀行
頭取　寺尾　威夫





“集”

植木　茂
Shigeru Ueki

寄　贈　松下電器産業　株式会社
設置場所　北地区センター

作者略歴　1912年札幌に生まれる。故三岸好太郎に師事。独立展に出品のち彫刻に転じ自由美術展に参加、1950年モダンアート協会創立会員、近代彫刻展（国立近代美術館）現在無所属、現代19人展（国立近代美術館）アメリカン、アブストラクト展に招待出品。サンパウロ・ビエンナーレ展、国立近代美術館買上、ベニス・ビエンナーレ展、現代美術展受賞（毎日新聞社主催）個展開催、現代美術10年の傑作展、日伊展（朝日新聞社主催）に出品。

制作のことば

千里ニュータウンに於けるモニュメント設置計画及び目的は、大阪府企業局と千里開発センターによって述べられている。

その設置計画を尊重し、与えられた場所にふさわしいものを製作することが私の仕事である。

日本の都市計画に於ける住宅の在り方に就いては数々の問題がある。個々には、生活を快的に且つ活動のエネルギーを生み出す場として種々の約束があるだろう。併し集団となれば別である。その内蔵したエネルギーは、新しい、集団という別の美を生み出す。という事実は、広大な恵まれた自然の中の千里ニュータウンに具現されている。

私は、集って初めて一つの性格を持つもの、つまり集団の性情とか、昼と夜の性格とかを表現することを計画した。

作品概要　高さ約７メートル、ステンレスパイプ製、約230個の枝を持つ。枝周りは短径２メートル、長径４メートル、周囲は石組みによる造形。

寄贈のことば

現代の文化と人知を結晶させた理想の街をつくろう、という大阪府の夢が、千里ニュータウンとなって実現し、修景作業をもって間もなく完了しょうとしていますことは、誠にご同慶に耐えません。

そしてこの新しい街が、単に機能的、合理的につくられた索漠とした人工の街に終らず人間性豊かな環境も備えた街として、人々に憩いを与え、ニュータウンとの融和感を醸しだすようにモニュメントの設置計画が進められて参りました。弊社と致しましてもこのご計画に協力致します為、ここに植木茂先生の制作になる「集」と名付けましたモニュメントをご寄贈申しあげた次第でございます。

このモニュメントがここに住み育つ人々の生活にとけ込み、皆様に愛されながら、街全体の雰囲気を高めるためにいささかでもお役に立てば大変幸いに存じます。

昭和45年６月

松下電器産業株式会社
社長　松下　正治





風の道

新宮　晋
Susumu Shingu

設　置　千里開発センター
設置場所　千里北公園

作者略歴　1937年豊中市に生まれる。60年東京芸術大学油絵科卒業。イタリア政府奨学生として渡伊。62年ローマ国立美術学校絵画科卒業後、イタリア・ドイツで個展・二人展を開催。ミラノ、ブルー画廊で始めて立体作品を発表、1966年11月に帰国。大阪・東京にて個展「風の造形」宇部野外美術館賞受賞、現代日本彫刻展（宇部）現代日本美術展（東京・京都）現代美術の動向展（京都国立美術館）現代日本野外彫刻展（須磨）に出品。万国博会場内人工湖のために“フローティングサウンド”制作。

制作のことば

北千里公園のゆるやかな起伏を持った丘は、想像していた以上にこの町の人々に親しまれている。女子学生が、丘を横切って学校に急ぐ、ボーイスカウトの健康な掛け声、子供用三段変速の自転車。天気の良い日曜日ともなればボールや子供達や乳母車や家庭的な匂いでいっぱいになる。この丘にそなわった風景を私はこわしたくなかったし、とても気に入った場所だった。この芝生の丘に人々が接するときの背景にふさわしいもので、そしてちょっとしたアクセントになるものが出来ないだろうかと考えはじめていた。そのためには、時間の経過や季節の変化を通じて私たちと同じように、生き生きとした存在でなければならない。そして私たちの生活にリズムを与えてくれる「自然の使者」のような物が出来れば理想だと思った。その時すでに私は個性を主張する芸術家ではなく、出来るだけ素直に丘の風景つまり人と自然のつながりをつかもうとする探求者になっていた。昨年の夏から秋、冬と周辺をめぐり遠くから丘を眺めて、あの風に動く塔の構想がまとまった。あらゆる風の性格に応じて運動し変化する塔である。これからの初夏の緑や８月の暑さや秋の雲が、そして健康な生活が似合うことを願っている。

作品概要　高さ約20メートル、下部巾７×８メートル、スチールパイプ製、最上部羽根強化プラスティック製。




箕面
Mino

荒木　芳邦
Yoshikuni　Araki

設　　置　大阪府企業局
設置場所　御堂筋南入口周辺

制作のことば

計画地域は千里ニュータウンの中心動脈たる新御堂筋線の丘陵を切り開いた両斜面及びその周辺一帯に及ぶ住宅都市の玄関にあたる地域である。此の斜面は延々１㎞に及ぶ法面にて画一的な吹付芝の面を造園的手法により豊かな自然景観を与えるよう試み、もみじ類を主体とした落葉樹林を植付け、法面に強い小松及びヘデラを一面に配して補強する。この木々の間に四季の花を競う灌木を立体的流動模様に配してもみじ山の景観を図る。丘陵一帯には、現存する松林・竹林を背景に特有な林相を呈する。もみ、つが、ひのきの針葉樹と落葉樹のもみじ類をこれに加えて緑の自然的景観を構成し桃山台一帯より春日池周辺に及ぶ地域を針葉樹林にて覆い池面の低地帯には水に映える落葉針葉樹のぬますぎ（らくうしょう）の群植としてユニークなイメージを与え丘陵の濃緑と水面の淡緑のコントラストを加えて美しい灌木が四季の装いを与えるであろう。自然の主役としての緑の植物を何処よりも豊富に身近に与えられる事が団地住居環境としての要因である。やがて将来には、鬱蒼とした森林に成育して公害の無い、生物達の棲家となり、都会住者の休養緑地として自然を探し散策を求め四季の変化を味わい、さながら団地の故郷の森となる様、今後の管理に充分意を尽されん事を願いたい。

設計者略歴　1921年生れ、1941年東京農業大学造園学科卒。株式会社荒木造園設計事務所代表取締役、日本造園設計事務所連合理事、広島県庁舎、宝酒造京都工場、関西電力病院、大阪ロイヤルホテル、タイ日本大使館等の造園工事、京都花山墓地公園、万国博覧会日本庭園、松下館、三菱館、淡川公園、花隅公園等の実施設計。千里中央線植栽設計。